



WAKA-AYU



基本理念

- 1 私たちは、政策医療ならびに地域ニーズに応じた一般医療をおこないます。
- 2 私たちは、患者様の立場や権利を尊重し、患者様中心の医療をおこないます。
- 3 私たちは、良質で安全な医療を提供します。
- 4 私たちは、常に改革心を持ち、健全な経営をめざします。

目次

2008
January
第6号

発行：国立病院機構 宇都宮病院
発行日：平成 20年 1月 1日
発行責任者：沼尾利郎

■ 新年のごあいさつ ……………	1	■ バザー ……………	5
■ 「おなかが痛い」からはじまる医療 ……………	2	■ 職場紹介【外 来】 ……………	6
■ 褥瘡・NST委員会への介入と今後の課題 ……	3	■ 職場紹介【管理課】 ……………	6
■ 研修会報告（西6・リハビリ） ……………	4	■ 外来診療担当医表 ……………	7
■ クリスマス会 ……………	5		



新年のごあいさつ



院長 吉武 克宏

明けましておめでとうございます。昨年は当院にとって、すばらしい飛躍の年でした。プロジェクトの中間報告冊子「改革プロジェクト立ち上げから1年」を読みましたか。患者数は増え、診療収入も増え、この分だと昨年に比べて平成19年度の当院の増収は軽く1億を超えます。職員のみなさん、本当にご苦労様でした。

なにより、当院にかかっている患者さんから感謝の声を数多く聞くようになりました。「改革プロジェクト」のコンセプト「『患者の目線に立った医療』で…」が実践された結果だと、私としても感激しております。経営改善は小手先の数字合わせではありません。

そして今年も、プロジェクト2年目の歩みは続きます。冊子「…立ち上げから1年」に書きましたように、引き続き患者確保が課題です。昨年、再開棟した病棟分の病床数の利用が病院全体として十分とはいえません。平成20年は東6病棟を(日)障害者病棟として軌道に載せる、(月)一般病棟全体の病床利用率をあげ、(火)在院日数を短縮して上位基準を取得する、が経営上の課題となります。この3つの課題が成就すれば、病院の黒字化は確実です。かくして「宇都宮病院改革プロジェクト」は3年目で、予定通り目標達成です。

ところが、思わぬ伏兵が出てきました。看護師不足で「改革プロジェクト」も足踏みしかねません。看護師獲得のために遠く札幌、弘前、仙台、山形、須賀川、水戸まで出かけて病院の宣伝をしてきました。しかし、結果は今のところ実っていません。このままではせっかく獲得した4名の増員枠もむなしくなります。幹部一同、戦略不足を反省し、新たな獲得方法を検討しています。職員のみなさんも身近なところで、ご協力をよろしくお願い致します。例によって新年の句をふたつ。

こころざし 貫きゆかん こそことし (稲畑汀子)
初空や 一片の雲 耀きて (日野草城)

本年が皆様にとって、また当NHO宇都宮病院にとっていい年でありますようにお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願い致します。

「おなか痛い」からはじまる医療



病棟部長(外科医長兼任) 増田典弘

看護師や医師の皆さんは学生時代に学んできたことだからご存知だと思いますが、日本の医学教育は体の構造や機能、すなわち解剖学、生理学から順に学びはじめます。次に病理、薬理を学び、さらに内科、外科と病気について学びますが、実際の患者を目にして病状から診断に到るのは最後のステップです。欧米ではどうなのでしょう?医学部の最初の授業は「腹痛」で始まるといわれています。アメリカではまずは「症状」ありきで、その次にどうしてその症状が出たのか、という順で医療を学んでいくのです。

ではなぜ「腹痛」なのでしょう?それは患者さんが最初に病院にかかるときに、一番多い症状が「腹痛」、「胸痛」だからなのです(日本では、だるいとか腰が痛いとかであちこちらをはしご受診している患者さんが多いので、すこし事情は異なると思いますが)。

一方、どんな病院が地域に求められるかといえば、「お腹が痛いときにいつでも見てくれる病院」がその一つの候補なのではないでしょうか?国立病院機構の存在意義は大きく分けて2つあると考えられます。一つは、民間の病院が行えない特殊な病気に対する治療、すなわち「政策医療」であり、もう一つが前述の「お腹が痛いときにいつでも見てくれる病院」のように「地域に密着した医療」です。前者に関しては皆さんもご存知の通り、当院は以前より整形外科の「骨・運動器疾患」、呼吸器科の「慢性閉塞性肺疾患」さらに重症心身障害者、結核治療などの分野で、地域でも非常に高い評判を受けてきております。しかし後者に関しては、残念ながら当院は地域の期待に十分に答えられてきたとは言えなかったと思います。

平成16年に国立病院は、「独立行政法人国立病院機構」として新たな一歩を歩みだしました。それに伴い、当院も改革のひとつとして獨協医大より消化器内科の俊英が派遣されるようになり、現在小嶋医長のもと4人で診療を行っております。また外科に関しては増田が平成16年7月に当院に赴任して3年がたち、群馬大学より私の協力スタッフとして3人の派遣を受け、4人体制で診療を行っております。また皆さんもご存知のように、平成19年2月からは救急指定病院として地域医療における任務を果たすこととなり、同年9月には内視鏡センターや救急室も整備されました。当院もようやく「おなか痛いからはじまる医療」を担える体制が整ったということなのです。

実際、時間外の救急車搬入台数は(表1)のように急増化しており、新規入院患者数も急増化していることがわかります。またそれに平行して内視鏡検査数も平成15年の2倍以上(表2)、外科手術数も平成15年の3倍以上に増えてきていることがわかります(表3)。このことは、一方では確かに現存スタッフの過重労働を招いていると思われる。しかし、このような患者増によって病院の経営は確実に改善されつつあり、また何よりも地域の住民、開業医の先生方の当院に対する評価が大きく上がってきていることは特筆すべきことだと思います。

いま当院は大きな変革期を迎えております。日々の診療に追われ忙しい日々が続いていることと思われかもしれませんが、地域医療の崩壊が叫ばれている中、当院の地域医療における責務はますます増加してきております。この緑に囲まれた美しい病院をさらに良いものとし、私たちの家族に、友人に自信を持って「うちの病院にかかりなよ!」と言える病院を目指し、皆さんで力を合わせてがんばって行きましょう!!

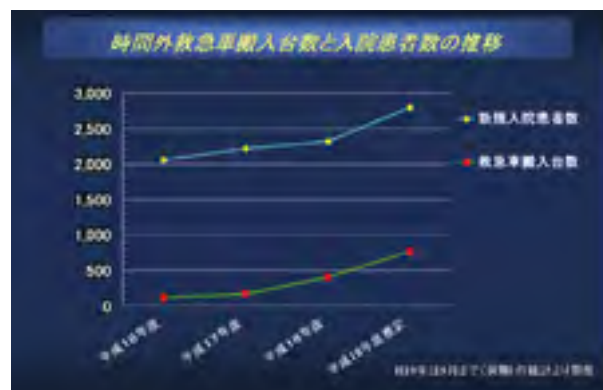


表1

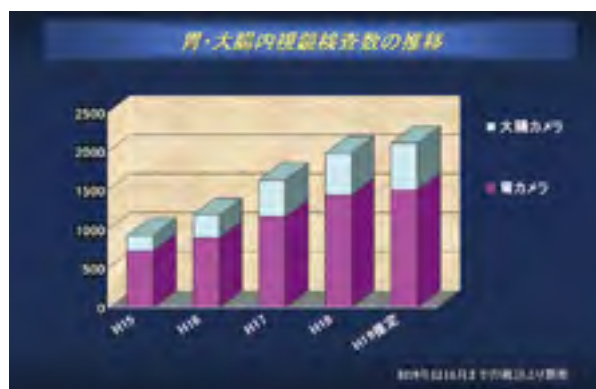


表2

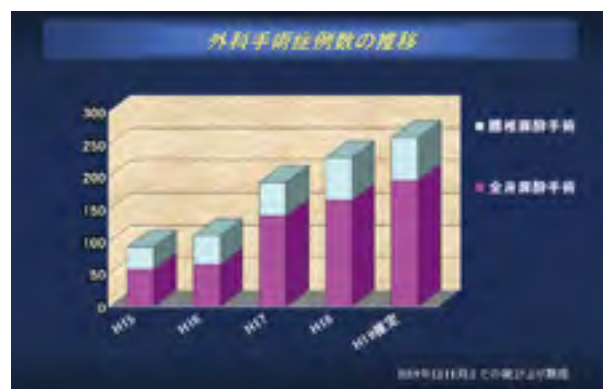


表3

NHO宇都宮病院における認定看護師の活動 — 褥瘡・NST委員会への介入と今後の課題 —



国立病院機構栃木病院 看護部
皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 富美

NHO宇都宮病院では、入院患者様の褥瘡(床ずれ)の予防と治療、および適切な栄養管理を整える対策のために、多職種協働による「褥瘡(床ずれ)・NST(栄養サポート)委員会」を結成し、施設ぐるみでこの対策に取り組んでおります。

2001年にWOC看護認定看護師(現在の皮膚・排泄ケア認定看護師、2007年現名称に改名)の資格を取得し、2002年4月国立病院機構栃木病院に入職した私のところへ、同じ国立病院機構である宇都宮病院から「褥瘡(床ずれ)対策チームの一員として回診に加わり褥瘡患者のケア指導にあたってもらえないか」という依頼を頂いたのは、2005年の秋のことであり、早いもので2年が経過致しました。宇都宮病院へは、栃木病院との「併任」という身分での介入であり、私は毎月2回(第2・第4火曜日)に宇都宮病院へ「出勤」しています。勤務時間は10:00~18:45という変則の遅出帯であり、これは日勤勤務終了後の学習会の都合を考慮したものです。主な活動内容は、(甲)褥瘡・NSTチームの回診および委員会、(乙)床ずれのケアを中心とする皮膚・排泄ケア領域のコンサルテーション、(丙)職員への啓蒙活動としての学習会の計画・実施、などです。午前中は病棟をラウンドし情報収集を行い、ケアの相談に応じたり直接ケアに入ったりして病棟看護師へアドバイスを行い、午後は褥瘡・NST回診をチームで行っております。学習会は全職員対象と新人スタッフ対象に区別し年2~3回実施しており、委員会においては運営に関する提言、情報提供を行っております。

認定看護師とは、ある特定の看護分野において熟練した知識と看護技術を有することを公式に認められた看護師のことです。「皮膚・排泄ケア」認定看護師は、スキンケア・失禁や人工肛門のケア・床ずれなどの創傷のケアを専門とし、栃木県内の医療機関には現在9名の皮膚・排泄ケア認定看護師が在籍しております。宇都宮病院での学習会や日々のケア指導において、皮膚・排泄ケア認定看護師の立場から私が、専門知識に基づく質の高い知識・技術を提供することは当然の目標であります。私もまた宇都宮病院で得たものを栃木病院へ還元できる機会を得ており、チャンスを与えて下さった宇都宮病院に深く感謝致しております。

また宇都宮病院では昨年より、褥瘡・NST委員会の主催による「北宇都宮学術講演会—褥瘡・NSTを考える会—」を開催しており、本年度私は特別講演の機会を頂きました。「創傷治療環境を整えれば傷は治る!—褥瘡ケアに必要な薬剤・ドレッシングの知識—」という講演タイトルに興味を寄せて下さった近隣の医療施設より140名余りの参加があり、参加者総数は178名という盛況でした。年々高齢化が深刻化する中、地域の基幹病院と近隣の地域医療施設との連携は欠かせないものになっていますが、このような会を通し地域との交流を密にすることが連携の潤滑油になり、地域医療連携に寄与するものだと考えます。宇都宮病院におけるこの取り組みに今後も協力させて頂き、地域褥瘡ケア・地域NSTの広がりに微力ながら貢献していきたいと思っております。

院内においては、以前は「医師が行うもの」「係りがやること」という認識だった褥瘡・NST対策ですが、最近では現場の看護師が「看護スタッフ一人一人が対策の一員である」という意識を持てるようになってきたと感じます。しかしながら、まだまだこの対策にリーダーシップを発揮できる看護師は少ないようです。国立病院機構において、看護師が質の高いケアを保証することは国民に対する責任であるため、宇都宮病院の看護職の中から褥瘡・NST対策をリードするパワフルな人材が育つことを強く願います。そのためには私が「役割りモデル」となり、看護師のモチベーションを向上させる牽引役を果たさなければならないと考えております。

看護師募集



■ 職 種

常勤看護師(夜勤のできる方)

新卒者、既卒者でブランクのある方も研修があり安心です。

■ お問い合わせ

月~金曜日 8:30~17:00

TEL 028-673-2111 (人事係へ)

いつでも
ご相談に
応じます



シリーズ 研修報告



国立病院総合医学会に参加して

西6病棟師長 小島 久美子

第61回国立病院総合医学会が11月16日(金)17日(土)の2日間、名古屋国際会議場で開催され、西6病棟からも1題ポスターセッションで参加しました。

今回のメインテーマは「自立と連携の新たなステージへー国立医療の飛躍ー」であり、独法化4年目を迎えてこれまでの活動の評価と次期中期計画策定に向けての重要な時期の開催のため、「国立病院は何を目指すのか」「医療の質と安全を高める共同臨床研究」「医療職の専門性向上と次世代育成」などメインテーマに沿った内容を多く盛り込まれ、シンポジウムは複数の職種からの発表・討論がされるように設定されていました。

当学会初の「QC活動優秀事例発表・表彰式」も行われ、機関誌NHOで発表された優秀事例のポスター発表も行われていました。初日はシンポジウム「重症児(者)病棟の問題点」を聴講し、当院の現状を考えながら各専門職からの提言を興味深く聴くことが出来ました。演題数で成育関連や患者サービス、病院経営関連も増えてきていますが、重心関連の演題が多くなってきているなと感じました。ちなみに2日間で126演題が発表され、各施設の重心看護に対して求められている多くの課題と期待とを強く感じました。

2日目、14の演題が準備されたポスターセッションのブース内は身動きがとれない程の人が集まり、発表者の声が聞き取りにくい状況でした。西6病棟は「ベット柵に頭を打ち付ける自傷行為のある児のために外傷防止の用具を考案・作成し効果的であった」ことを良く通る声で発表しました。工夫したベット全体の写真の紹介に加え、使用した材料を展示して置いたところ、発表前から近づいて熱心に見ている人もいて効果的な発表ができたと思えました。どこの施設にも「動く重心児」に関する問題があるためか関心を集めていました。

せっかく名古屋に来たのだから味噌カツや讃岐うどん、浜名湖天然ウナギでもと思っていましたが時間のない日程になり、慌ただしく駅弁を買い込み、中日ドラゴンズの優勝パレードで盛り上がっている名古屋を後にしました。ただ、ポスターセッション発表前夜、皆で名古屋らしいつまみで美味しいお酒を(しこたま)頂いた事や、発表も無事に済んだことで満足の2日間でした。発表者、発表グループの皆さんお疲れ様でした。



骨・運動器疾患研修会の講師として

リハビリテーション科 作業療法士長 中田 純

第27回 骨・運動器疾患研修会が平成19年11月29日(木)・30日(金)の2日間、当院にて関東信越ブロック国立病院機構病院看護師27名の参加の下で開催されました。研修内容としては29日・整形外科の田中部長による「関節疾患の基礎と臨床」小林愛美看護師長による「関節疾患の看護」永山医療社会事業専門員による「福祉と介護保険について」の講義が行なわれ、翌30日はリハビリテーションについて理学療法士(PT)・作業療法士(OT)による講義があり、その後に総合ディスカッションが行われて2日間の日程が終了しました。

リハビリテーション科ではPT・OTにより「骨・運動器疾患のリハビリテーション」「老人の作業療法」の講義、杖の使い方・部分荷重の方法や歩行訓練、自助具について実習などを行いました。

骨・運動器疾患の患者さんが抱える様々な問題点は、実際のリハビリ訓練場面だけでは対応できない事を各受講生は改めて認識したようでした。自分自身にとっても、リハビリを行う際の患者さんに関する病棟との情報交換の重要性を再確認する良い機会となりました。





楽しいクリスマス会

西5病棟師長 小林 誠子

あちこちでジングルベルが聞こえてくる季節、みんなが楽しみにしていたクリスマス会が行われました。養護学校、病棟それぞれに趣向を凝らし、かわいらしいカルメンと凛々しい闘牛士になった子供達と先生のダンス、ゲゲゲの鬼太郎とその仲間達に扮してのお芝居とダンス、今年流行ったビリー・ザ・ブーツキャンプを披露しました。

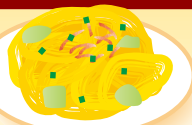
また、今年は宇都宮シルバーアンサンブルの方々のご協力があり、素晴らしいコンサートが行われました。懐かしい曲もあり、みんなで合唱し心が一つになりました。昼食は特別メニュー、おやつはケーキ(モンブラン)(^o^)とっても美味しかったです。

クリスマス会は重症児(者)とご家族の大切な交流の機会です。来年も皆さんに喜んで頂けるイベントを企画しますので楽しみにしていて下さいね。

今回ご協力頂いた養護学校の皆様、病院関係者の皆様に深く感謝致します。



● ● ● バザー



焼きそばのお味はいかがでしたか？

宇都宮病院重症心身障害児(者)家族の会会長 倉持 寿

宇都宮病院の職員の皆様、日頃の重症児(者)の利用者と、家族の会へのご厚意、ご配慮、心から感謝いたします。11月の家族の会のバザーには、大変なご協力をいただき、誠に有難うございました。焼きそばのお味はいかがでしたでしょうか？

家族の会は、入院児(者)の幸福のために、家族同士親睦を深め、より良い医療、療育を求め、病院の運営などに協力をするという趣旨で活動しています。

そのために、会費も集めてはいますが、より広く、深い活動を行うためには、もっと資金が必要です。

そこで、年1回バザーを行っています。

しかし、最近では、祝い事の引き出物や、お返しなどはカタログになり、どこの家でも欲しい物は揃っているのが現実です。

そのため、バザーも、出品物も少なく、欲しい物も別がないという悪循環に陥っています。

家族の会では、毎月末日の日曜日に《ふれあいの日》と称して除草作業などの奉仕活動を行っています。その時には皆でお茶を飲み、時には自分たちで昼食を作って食べます。

そんなある日、男性陣が、バーベキューをやってみようと言い出し、バーベキューや、焼きそばを昼食に出す回数が増えました。

バーベキューや、焼きそばの燃料は、あの林の間伐材です。そして、こんなに上手くできるのなら、バザーで売れるのではないかとということになりました。

何回も試作し、計算し、時間を計り、300食は作れることがわかり、挑戦したのが昨年です。今年は、職員の皆さまの大いなる協力により、360食販売できました。

実は、今年職員の皆さまからの大量の注文が来た時、『よーし、美味しい物を作るぞ〜』と、我々の気合はMAXに達し焼きそば班の気持ちは1本のよりの強い縄になりました。昨年より美味しい物とを考え、裏技を習得しました。この気合が美味しい焼きそば(だったと自負しています)を作り出した素だと思います。

しかし、バザーが終わった今も、喜んでくれる方々にもっともっと、美味しい物を届けたいという気持ちが大きくなり、家族の会では、もう来年に向けて焼きそば談義が花盛りです。

職員の皆さま、毎月末日の《ふれあいの日》に、広場においで下さい。

一緒に焼きそばやお茶などいかがですか？

重症児(者)は、一人では生きていけない子ども達です。これからも宜しくお願い致します。



外 来

外来師長 井口 栄子

外来は、内視鏡センター・内科(呼吸器 循環器 消化器 内分泌 腎臓 神経内科)・外科・整形外科・小児科・歯科・耳鼻科・皮膚科・眼科の13科と処置室、急患室と15名の看護師が協力して働いています。

待ち時間が長いとの苦情をいただくこともあります。私たちは患者様1人1人の訴えをよく聞き、思いやりのある看護が提供できるように、一期一会の気持ちで接し地域の人々に愛され、必要とされる病院を目指しています。

昨年10月からは急患室が新しくなり11月からは本格的に稼働しています。広々としたスペースも2台の救急患者が入ると狭く感じます。多種多様な患者様に対し、少しでも元気になって欲しいと願いスタッフが丸となって頑張っています。

今年はソフト面での充実が更に必要になってくると思います。皆様のご協力を宜しくお願いいたします。



管 理 課

電気士長 小林 泉

電 気 の 話

電気というと、皆さんはしびれるから嫌だと言いますが、地球上すべてのものが電気をもっているのです。電気をもっていると思えない紙やガラス、空気や水、全て電気をもっているのです。電気でできていると言っても過言ではないでしょう。まして人間の体は電気だらけなのです。電気といっても電灯をつけるような強い電気ではなく、極々小さな分子です。分子

子の中を覗いて見ると中心に原子(+)があり、その周囲を電子(-)が回っています。

この電子は放浪癖がありまして、冬になると着ているものが摩擦などで大きく帯電し金属などに近づくと静電気として電子の移動が表面に現れるのです。ちなみに最近地球の温暖化が問題になっていますが、家庭で最も二酸化炭素(CO2)を出しているのが電化製品だそうです。では、なぜ火を使わない電化製品が二酸化炭素を出すのでしょうか、それは、スイッチを入れることによって電力を消費し、元の発電所の出力がアップし二酸化炭素が排出されるからです。最近の電化製品は待機電力(テレビ・パソコン等)を必要とする機器が多くなったのも問題です。また最近のヘアードライヤーは1200Wと大型化しターボスイッチ付きで出力アップしています。皆さんはヘアードライヤーを使用し、外にある電力計を見たことがあるでしょうか、ターボスイッチを入れると驚くほど速く回っています。

夏の夜の満天の星空、見上げたことがあるでしょう。綺麗ですよ、でも最近、天の川が見えません、これも温暖化のせいだそうです。院内の電気機器(照明・換気扇等)必要が無い所はスイッチをこまめに切って下さい。

省エネにもつながります。昨年の夏も例年になく暑い日が続きました。電力使用量も7月になってからグーンと増えました。当院の電気料金がどのくらい支払われているか知っていますか、一昨年ですが、電力使用量が少ない5月で約230万円、最も多い8月で約420万円、年間約4,000万円弱が支払われています。「小さな事からこつこつと」どこかの言葉ではありませんが、**もっと節電に協力しましょう!**

編 集 後 記

院内広報誌の変遷を見ると「東うつのみや」「宇都宮病院だより」そして、清流を好み元気な若鮎を語源とする現在の「わかあゆ」となり、今回第6号の発刊となったところです。

2008年鼠年最初の発刊であり心新たに皆様に愛される広報誌にしたいと思いますので、今後とも各職場のトピックス等ありましたら写真も添えて原稿をぜひ管理課までお申し出下さい。皆様のご協力をよろしく願いたします。

管理課長 仁平正行



表紙撮影:看護部長 土井三枝子

外来診療担当医表

平成 20年 1月 1日現在

診療科名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
総合診療科(初診)						
内科	戸田 正夫	戸田 正夫	沼尾 利郎	岡田 壮令	沼尾 利郎	
外科	富沢 健二	富沢 健二	小川 敦	小川 敦	増田 典弘	
糖尿病代謝内分泌科 (皮膚科・月曜午後)	栗山 源慎 栗山 源慎	森 豊 森 豊	森 豊 森 豊	栗山源慎(第1・3・5) 石井博尚(第2・4)	石井 博尚	
神経内科	伊藤 雅史			椎葉 千恵		
消化器内科	内園まり子	菅谷 洋子	藤井陽一朗	小嶋 和夫	菅谷 洋子	
循環器内科		箕田紳一郎(第2・4)	伊藤 致		箕田紳一郎	
腎臓内科 (午後)[予約制]				岡田和久(第2・4)		
呼吸器科 再診	岡田 壮令	沼尾 利郎	戸田 正夫	降旗 友恵	鹿島 隆一	
アレルギー外来 午後	戸田(隔週)		戸田(隔週)			
小児科 午前						
受付(午後) 14:00~16:00 午後		予 防 接 種 (小児)[予約制]		子供養育相談ルーム [予約制](第2・4)		
小児アレルギー外来 (午後)[予約制]				中野俊至(第1・3)		
小児神経外来(午後)	奥野 章(第3)					
外科	午前2診	増田 典弘	伊藤 知和	増田 典弘	増田 典弘	伊藤 知和
	午後1診	富沢 健二	富沢 健二	小川 敦	小川 敦	小川 敦(隔週) 富沢健二(隔週)
整形外科	1 診	田中 孝昭	真島 敬介	飯田毅博(第1) 菊地隆宏(第2・4)	菊地 隆宏	熊谷 吉夫
	2 診	真島 敬介		熊谷吉夫(第3) 真島敬介(第5)		菊地 隆宏
リウマチ科			熊谷吉夫(第1・5) 田中孝昭(第2・3・4)			
リハビリテーション科			菊地 隆宏	菊地 隆宏	菊地 隆宏	
装具外来	田中 孝昭				菊地 隆宏	
※耳鼻咽喉科(午後)		添田 弘				
※歯科		渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子		
眼科(午前)					永田万由美	
皮膚科	午前	栗山 源慎			栗山源慎(第1・3・5)	
	午後	栗山 源慎	吉田 隆洋栗山	源慎	吉田 隆洋	
禁煙外来(保険外診療) 午後	戸田 正夫		戸田 正夫		沼尾 利郎	

病院紹介

- 外来診療受付時間 8:30~11:00
外科は、午後も診療を行っております(午後の診療受付時間 14:00~16:00)
- 月曜日午後の糖尿病代謝内分泌科は、入院及び外来他科からの依頼患者さまに対する皮膚科領域の診療を行います。
- 耳鼻咽喉科、歯科に関しましては入院患者さまのみの診療となります。
- 眼科・皮膚科につきましては、地域医療連携室におきまして電話での予約を受け付けております。
眼科診療時間 9:00~12:00 皮膚科診療時間 13:30~16:30
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374(直通) FAX 028-673-1961(直通)
担当 永山悦子(ケースワーカー)、宇梶多恵(ケースワーカー)



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町2160
TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148
<http://www.hosp.go.jp/~utsuno/>